

2024 年度

自己評価報告書

近畿福音ルーテル学園

のぞみ幼稚園

2024年度自己評価報告書

1. 本園の教育目標

- ・ 幼児そのままを受け入れ、教師との信頼関係に支えられた生活が展開できるように配慮し、幼児の主体的な活動としての十分な遊びを確保し、遊びを通して友だちとの関わりを思考する過程を大切にした教育を目指す。

本園の目指す幼児像

- ・ 心身ともに健康でたくましい子
- ・ 友だちと力を合わせて遊ぶ子
- ・ 自然や美しいものに感動できる子
- ・ 平和を愛する子

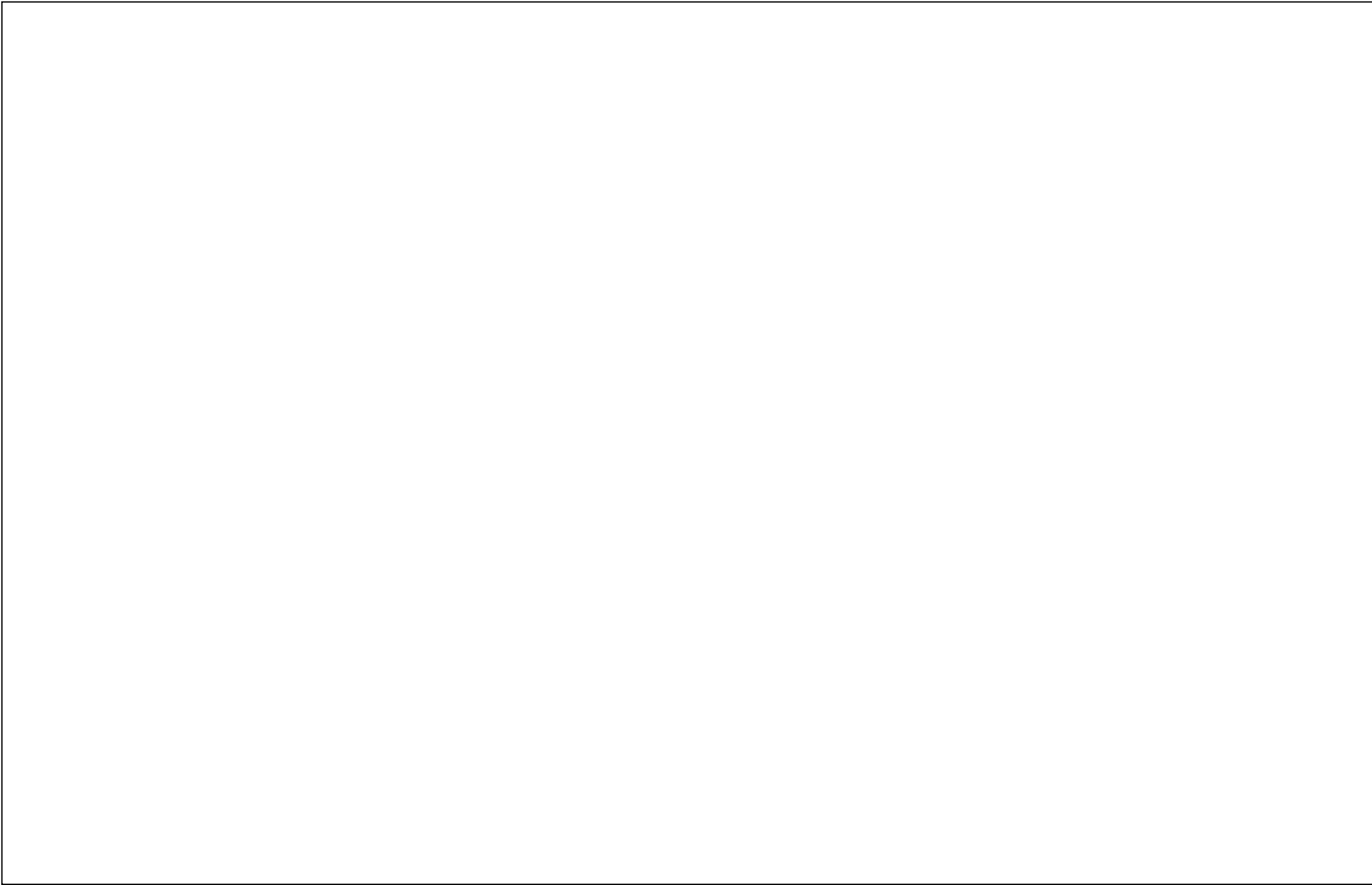
2. 2024年度の各年齢の到達目標

本園の教育目標及び本園の目指す幼児像実現のため、10項目に照らし合わせ設定する

1. 健康な心と身体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳心・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数字・図形、文字等への関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

《三歳児》

1. 身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
2. 身の回りのことを自分で行い、やりたい遊びを見付ける。
3. 友だちと一緒に遊ぶことを知る。
4. 色んな感情に触れる・知り、集団生活での決まりを知る。
5. 家庭以外の人に対して親しみを持つ。
6. 遊びを自ら選択する。
7. 土と泥に触れ、生物の存在を知る。
8. ひらがな・数字を見る。
9. 友だちとやりとりを楽しみ、語彙を増やす。
10. 表現することを保育者や友だちと一緒に楽しむ。



3. 目標達成の為に取り組んだ各クラスの活動内容・結果・評価

※評価について…Aクラス全体で達成できた Bクラスの半数が達成できた

C達成できなかった

D取り組めなかった

((三歳児))

活動時期・期間	目標における活動内容	結果	評価
1年間	1 かくれんぼや鬼ごっこなど、その都度ルールを確認しながら行った。また身体を動かすことやルールのある遊びが苦手な子には、保育者と一緒に逃げたり、制限時間を設けた。	1 徐々に苦手な子どもも参加するようになり、3学期には一人で鬼ができるようになったり、異年齢児(4・5歳)に混ざって鬼ごっこに参加する姿が見られた。 また、年長児が遊んでいた缶けりにも興味を示し、保育者と一緒に参加し異年齢児と関わる機会も増えた。	A
1年間	2-I それぞれが好みそうな遊びを提案し、保育者も一緒に遊んだ。 また初めて出す遊び(粘土・寒天・スライム等)は最初にみんなでできるよう設定保育として取り入れた。	2-I ひとりひとりがやりたい遊びを見つけて遊び進めていた。 初めての遊びも設定保育で一度行うことで、少しでも触れたり、雰囲気を感じ、それぞれがどんな遊びが好きなのか知ることができたり、やりたい遊びの選択肢を増やすことができたと思う。	B
1年間	2-II シール貼りやタオル掛け、水筒を置くなど身の回りの支度が自分でできるように見守った。シール貼りでは一人の時でも貼る場所がわかるように、その都度貼る日にちと前に置いてあるカレンダーの日にちと一緒に置いていることを伝えた。 また着替えでは、自分の着替えの箱を取り、必要なものを取り出すように声をかけたり、一人で着替えられるように促した。 排泄では、子どもの気持ちを尊重し、一人でできるのか、保育者と一緒にするのかを確認したり、定期的に排泄を促す声をかけたり、一人で出来たときには、ご褒美シールを貼ったりして十分に褒めて認め、達成感を感じられるようにした。	2-II 身の回りのことを自分で行うことができた。 徐々にシール貼りも一人でやる姿があり、子どもたちから「今日は○日？」と日にちや数字の声も聞こえた。また子ども同士で確認しあう姿もあった。 着替えや排泄など、一人でできたという喜びを保育者と一緒に共有し、「できたよ」と子どもから報告してくれることも増えた。	B
1年間	3 おうちごっこを通して保育者も参加し、最初はお客さんとして子どもと共に入	3 1学期は個々で遊ぶ姿もあったが、保育者が間に入り、おうちごっこに入ったりすること	A

	り一緒にお料理したり、食べることを楽しみながら、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるように意識した。	で、みんなでおうちごっこしようと呼びあうようになった。またクラスの仲間も深まりクラス意識も高まったように感じる。	
1年間	4-I 誰かが泣いているときには、その気持ちを保育者が言葉で代弁し、「寂しいんだって、悲しいんだって」と周りにもわかるように伝えたり、喧嘩の仲介では、お互いがどんな気持ちなのかを聞き出したり、代弁した。 また絵本などの視覚教材を使って、「どんな気持ちだと思う?」と問いかけ、考える場面を作った。	4-I 自分の気持ちを言葉で表現したり、誰かが泣いていると「悲しいの? 悲しいんだって!」と表情をみたり、会話をし保育者に伝えてくれることもあった。	A
1年間	4-II 最低限のルール(順番を守る、園のものを大切にするなど)を保育者が事前に伝える前に、子どもたちの行動を見て不都合がないか確認した。	4-II 子どもたちの中でルールが浸透し、お互いに声を掛け合っていた。	A
1年間	5 園外保育では、道中や公園で保育者が率先して挨拶をしたり、お礼を伝える姿を見せるように意識した。	5 保育者が挨拶したあとに子どもたちが続いて挨拶をしたり、子どもたちから挨拶や話かける姿もあった。	B
1年間	6 自分でやりたい遊びができるよう、塗り絵、シール貼りなど置く場所を固定にし。一人でできるような環境作りを行った。	6 それぞれが遊びを選択し、遊んでいた。	A
1年間	7-I 保育者が裸足になり、水たまりや泥に入る姿を見せたり、積極的に子どもと一緒に砂場で泥遊びや工事遊びを行った。	7-I 汚れることが苦手な子も保育者の姿を見て泥遊びに参加したり、水たまりに入ったりして遊んだ。しかし服が汚れることに抵抗を感じ全力で遊べない様子の子もいた。 汚れても着替えがあること、袖をめくることなどで汚れにくくなることなど丁寧に伝えていくことが大切だと感じた。	B
1学期～2学期	7-II クラスでカブトムシやカニの飼育を行った また生き物の図鑑を子どもの手に届くところに置き、いつでも生き物について聞かれるような環境づくりを行った。	7-II 飼育環境を子どもたちと整えながら生き物の生死を知ったり、その生き物について詳しく知る機会を作ることができた。ダンゴムシやテントウムシなど園庭で捕まえたものをどうするのか一緒に考えたり、図鑑で見種類を知ったり、飼育環境を作った。	A

1年間	8 お帳面にシールを貼るところにカレンダーを置き、毎日数字に触れることができるようにした。 帰りの会で椅子を並べる際には、一緒に椅子の数を数えたりもした。 また、3学期にはカルタを出し文字に触れる機会を作った。	8 普段の生活から数を数えたり、数字やひらがなを読む姿も見られた。 カルタでは3学期の後半になるとひらがなを少しずつ覚え、読み手をやりたいという声も多くなった。	A
1年間	9-I 朝ごはんは何を食べたかなど、保育者が問いかけ会話することで子どもたちも会話に参加しみんなで会話を楽しめるような環境づくりをした。	9-I 自分のことを積極的に教えてくれるようになったり、子どもたち同士で会話を楽しんでいた。	A
2学期・3学期	9-II しりとりや私は誰でしょうクイズをしたり、様々なジャンルの絵本を読んだ。	9-II 日常から一部の子どもたち同士でしりとりをする姿もあったが、一部の子どもたちだけでなくみんなができるよう、もっと全体でしりとりや連想ゲームを取り入れることが必要だと感じた。	C
1年間	10 定期的に設定保育でリトミックを行い、動物や乗り物になりきったり、「みんなで散歩にいこう」とピアノの音に合わせて手を繋いで歩いたり、走ったり、眠ったりと表現する時間を取り入れた。	10 ピアノに合わせてそれぞれが自由になりきっていた。子どもたちそれぞれの個性を認めてあげられるような声掛けを行うように意識した。 また、ピアノの音をよく聞き、走ったり、歩いたりと合わせていた。	B

（四歳児）

活動時期・期間	目標における活動内容	結果	評価
1年間	<p>1</p> <p>保育者も入りながらルールのある鬼ごっこやゲーム遊びを繰り返し行うことで体を動かして遊ぶことの心地よさや友だちとの交流を楽しめるように進めてきた。</p> <p>勝ち負けや、一人でも鬼になってやり切ろうとする気持ちなど、精神面において強い思いをもてるよう対応しながら見守りを行った。</p>	<p>1</p> <p>鬼ごっこの他にも跳び箱や縄跳びにも興味をもち積極的に取り組む姿が見られた。友だちとの交流も広がる中、個人縄では継続性が見られた。</p> <p>不安な表情や涙を見せることもあった。</p> <p>保育者が声をかけると前向きに捉え、やり切ることが出来ていた。</p>	B
1年間	<p>2</p> <p>それぞれの好きなことや興味のあることを遊びに繋げていくことで自分から遊びを選び伝えるよう様子を見ながら提案をおこなった。</p> <p>自分の考えをもち、自分の行動に自信がもてるよう日常の生活や遊びの中で表現しやすい雰囲気を作ったり、活動を通して意見やアイデアなどを発言していきける機会を設けるように進めた。</p>	<p>2</p> <p>自分で出来ることを見つけると、保育者がずっと付いていなくても行うことができたり、繰り返して行おうとする継続性も見られたが、自分から遊びを広げていく姿が乏しい子の姿も見られていた。</p> <p>自分の思いをどんどん発言していく子と、言葉の少ない子との差が目立ち、自信のなさから合わせたり流されてしまう様子も伺えた。</p>	B
1年間	<p>3</p> <p>ごっこ遊び（お家・お店）やビー玉転がしの組み立てなど複数で行う遊びや、クラスでのイベント企画の中でのペア行動の中で友だちと話をしながら決め、一緒にできる方法をを考えていける経験を重ねた。</p>	<p>3</p> <p>まず自分の思いを主張し保育者に伝える姿が多かった。</p> <p>保育者が促すことで、相手の思いを聞こうと話し合う様子が見られ、一緒にやり遂げることが出来ていた。</p>	B
1年間	<p>4</p> <p>遊びを通して友だちの思いを知り、友だちと一緒に気持ちよく遊べる方法を自分なりに考えられるように声をかけていた。特にごっこ遊びの中では友だちとのやり取りが多くなるため自分のことだけではなくその場の状況なども合わせて汲みとれるように声をかけることもあった。</p> <p>共通の遊びや、クラスで企画したイベントに誘ってみることで異年齢との関わりももてるよう促したり計画を進めたりしてきた。</p>	<p>4</p> <p>ごっこ遊びの中ではイメージの違いや思い思いの動きで、まずは自分優先な部分が見られトラブルになることもあった。</p> <p>何が嫌なのか、理由も加えて伝えて行く回数が増えた。</p>	B

園外保育	5 園外保育を通して交通ルールや施設でのマナーを学ぶと共に、そのことを事前に伝えておくことで自主的に考えて行動してみようと思えるようにした。またしおりを配布し楽しみに待てるようにした。	5 園外でのルールやマナーを意識して行動しようとする姿が見られた。	A
1年間	6 遊びの中で発見したことや疑問に思ったこと、興味を持ったことなどがあれば人に聞いてみることに他に調べてみることを提案し、一つの方法として自ら考えて行動できるように行った。 問題解決の場、イベントの計画などクラスで話し合える時間を設けることで、それぞれが話に向き合い自分の考えをもてるよう進め、認めていくことも大切に行った。	6 虫や昆虫。生き物について図鑑を使って調べようとする姿が多くなり、知識を得るとそれを生かして飼育したり人に教えようとする声も聞かれた。 クラスでの話し合いでは、分からなかったり自信がなかったりと、考えるが発言に乏しくなる子の姿が同じだった。経験のある内容や名前えを指名すると、考え発言することもあった。	B
1年間	7 虫や昆虫を捕らえて飼うことが多かったため、生死に触れる機会もあり、なぜ？この後どうするか？など命について考えていけるよう声をかけながら命の大切さも伝えていった。	7 飼育することで毎日気にかけて観察する姿が見られ、死に気付くとそのまま放置するのではなく、自ら自然に返そうと行動したり原因は何かと考える声も聞かれた。 経験したことを生かそうと環境を整える姿から命を意識する様子が感じられた。	B
1年間	8 歌の歌詞をひらがなで書いて掲示したり、話し合い時にホワイトボードを使って視覚的にも伝えながら文字に触れるよう進めた。また縄跳びや鬼ごっこなど遊びを通して数をかぞえ数字にも触れるように行った。 自分の名前をひらがなで書く経験や、ゆうびんごっこの中で友だちとのやり取りを楽しむことにねらいを置き、楽しんで文字に触れていけるように見守り進めた。	8 掲示している文字を見ながら読む姿が見られ、ひらがなに興味を持ちながら、読めると満足感をもち内容も理解しようとしていた。 ゆうびんごっこではポストに入っている手紙を確認し、届けに行く課程も喜んで行っていた。読めなかったり書けない文字があると保育者に聞いたり自らひらがなボードを使い、見ながら書くことで成立させようとしていた。	A
1年間	9 争いごとを避けたり、遠慮してしまったりする傾向にあり自分の思いを伝えるより譲る、同調する姿が多く見られた。そのため保育者が間に入り言葉で伝え	9 保育者が入りすぎると委縮してしまい顔を伺う様子が1学期は多かったため入り方や声掛けの言葉を意識しながら対応することで安心して伝えようとする子の姿が見ら	B

	<p>合うことで納得し心地良さを感じていけるよう関わった。</p> <p>クラスでの話し合いの場を設けることで、自分の思いや意見を発言できるよう一人一人にスポットをあてていくように進めていた。</p>	<p>れた。</p> <p>話し合いの場を繰り返し作り進めることで、一人一人の発言する声も増え、クラス内なら人前でも発表することができるようになっていた。</p>	
1年間	<p>10</p> <p>絵画・工作・リトミック・楽器などの活動を通して様々な技法を行ったり、素材に触れて作り出す楽しさを感じられるようにした。</p> <p>また音に合わせて体を動かし、なりきりで自分を表現できるよう、楽器を使う楽しさから一人一人が伸び伸びとした気持ちをもてるように進めていった。</p>	<p>10</p> <p>物を作り出す体験やリズム表現などは興味を示す姿が多く、オリジナル感から個性を感じられることも多くあった。</p> <p>楽器遊びから演奏会というイメージにつながり、緊張感があったものの、手作り楽器やクイズを取り入れ楽しさを共有したい思いが感じられていた。</p>	B

((五歳児))

活動時期	目標における活動内容	結果	評価
5月～11月	1 秋の運動会に向けて跳び箱縦5段・個人縄前跳び10回・鉄棒をクラス全体で目標を立て取り組んだ。設定保育で全員が一斉に取り組む環境を整えたり、自由遊びでいつでも取り組める環境を整える事で、友達からの刺激（友達が跳び箱を達成することや縄跳びを飛べるようになったなど。）を貰ったり教え合いをして、助け合った。	1 それぞれが自分の目標に向かって、練習したり、友達の頑張る姿を見て取り組む姿が見られた。 周りの友達が目標達成していく中で、悔し涙を流す子もいたが、周りの友達の応援の声で最後まで取り組み、達成していく姿があった。	A
5月～7月 9月～3月	2 夕涼み会のお店では、自分で担当する店を決め、約2か月かけて21個の商品を一つずつ丁寧に作っていった。当日は、お客さんとのやりとり（接客）や商品を並べる作業、ラタンのしおりを外しての会計など、一連の流れを理解し、役割を果たそうとする姿が見られた。最後まで商品を売り切ることを目標に取り組んだ。 普段の幼稚園生活でも、昼食の際の机の上を拭く係やお祈り係など日替わりで、役割をルーレット式で行った。	2 自分の担当する商品作りに集中して丁寧に仕上げたり、セットメニューとして量を増やして工夫する姿が見られた。全員で役割を確認し合いながら、一人でも接客を行い、最後まで売り切ることができた。 お仕事を続ける中で、「今日のお仕事はなに？」と自分の役割を意識し、主体的に動く姿が見られた。ひらがなが読めない子ども、絵を手がかりにして役割を理解し、行動に移す様子があった。	B
1年間	3 カプラ展やキャンプ屋さん、団子屋さんなどを通して、クラス全体で協力しながら活動を進めた。その中で、子どもたちと一緒に、人の配置や必要な役割、一度に呼ぶ人数や時間帯、場所などについて話し合い、考える環境をつくった。友達が発信したお店では、その子の意見を最後まで聞き、内容をもとに進めながら、自分の意見をクラスで発信する姿も見られた。意見を言うことが難しい子ども、	3 クラス全体での話し合いでは、友達の意見を最後まで聞くことが難しい子もいたが、友達の「やってみたい」「やりたい」という思いを共有し、それを形にしていくことができた。また、1学期には意見を発信することを恥ずかしがっていた子ども、3学期には自ら手を挙げて発言する姿が見られるようになった	B

	<p>多数決という形で話し合いに参加することができた。</p>		
2学期から	<p>4-I 外遊びのルールのある遊び（缶蹴り・ドッジボール・バスケットボール・年長児が作ったアスレチックなど）を全年齢が楽しめるよう、初めは、保育者が参加して年長児と異年齢児の間に入り、異年齢児が困っている時の伝え方や教え方を年長児に見せていった。 年長児が自信を持って関われるように意識して声掛けを行った。</p>	<p>4-I 年長児が中心となって遊びを進める中で、異年齢が参加すると、保育者の言葉や動きを見て学び、優しくルールを教えたり、一緒に行っていく姿が見られた。また、異年齢児の「自分でやりたい」と言う気持ちに寄り添い、そっと手を添えて助ける姿が見られた。 三学期になると、自ら異年齢児に駆け寄り「ブランコを押してあげる」など、異年齢児が初めて挑戦する場面でも、すぐに助けられるように近くで見守っている姿が見られた。</p>	A
2学期から	<p>4-II 自由遊びや集団遊びの時間に、子ども同士の関わりが自然に生まれるよう環境を設定し、遊びの中で「誘う・断る・別の提案をする」などのやりとりを保育者が見守った。トラブルが起きた際には、子どもそれぞれの気持ちを丁寧に言葉にして受け止め、相手の気持ちに気づけるような声掛けを行った。また、断られたときの気持ちを代弁しつつ、気持ちの整理を手伝うことを意識した。</p>	<p>4-II 誘いを断られて涙を流す姿が見られる中で、保育者の声かけによって「そうなんだね」「じゃあまたあとで一緒に遊ぼうね」など、気持ちを整理して言葉で表現しようとする様子が見られるようになった。また、断った子も「今は△△と遊びたいけど、あとで一緒に遊ぼう」と、自分の気持ちを伝えつつも相手への配慮を見せる場面が増えた。子ども同士で気持ちをやりとりし、互いの立場や気持ちに気づく力が少しずつ育ってきた。</p>	C
1年間	<p>5 毎月のお誕生日会に向けて、子どもたちが自分たちで買い物を経験できるよう、近くのスーパーまで歩いて行き、一人一品ずつ買い物をする活動を行った。 事前に「何を買うか」を伝えただけで、少人数のグループに分かれ、保育者と一緒に店内を回った。子どもたちは自分の担当の品物を探し、見つけたら保育者のカゴに入れる。レジでは保育者がお金を支払い、子どもたちはその様子を見て学ぶ。買った品物は、各自で責任を持って園まで持ち帰るという取り組みを行った。</p>	<p>5 買い物の一連の流れを通して、「商品を選ぶ」「ルールを守って順に動く」「お金を払って物を受け取る」という社会の仕組みに触れることができた。 一部の子どもには、商品を見つけてすぐに先に進んでしまう姿も見られたが、全体としては事前に伝えた役割を理解し、グループの中で順番を守って行動しようとする様子が見られた。買い物を終えて園に戻ると、自分が買ったものを大切そうに運ぶ姿が見られ、「自分の役割を果たした」という満足感や責任感が育っていることが感じられた。</p>	C
2学期後半	6	6	B

	<p>戸外での集団遊び（鬼ごっこやルールのある遊び）を子どもたちが話し合って決める機会を設け、保育者はあえて決めず、子ども同士の意見交換を見守った。</p> <p>「鬼を何人にするか」や「どの遊びをするか（AかBか）」といった意見の分かれる場面では、保育者が「どちらの考えもあるね。どうしたらいいかな？」と問いかけることで、子どもたちが互いの意見を聞き合い、自分たちで解決策を探すことを促した。</p>	<p>意見が分かれる中でも、一部の子どもたちから「じゃあ、まずはAをやって、そのあとBをやろう」「鬼は最初は1人、次のゲームでは2人にしてみよう」といった提案が出てきた。</p> <p>その提案に周囲も納得し、話し合いで決まったことに沿って活動を楽しむ様子が見られた。</p> <p>自分の意見だけでなく、友だちの考えにも耳を傾け、みんなが納得できる方法を自分たちで見つけていこうとする姿が見られた。</p>	
1年間	<p>7-I</p> <p>避難訓練の後、クラスで「災害が起こるとどうなるのか」「どうすれば命を守れるのか」について話し合う時間を持った。</p> <p>保育者からは、災害の恐ろしさや、真剣に訓練に取り組むことの大切さを伝え、子どもたち一人ひとりが「なぜ逃げるのか」「どう逃げるのか」を考えられるようにした。</p> <p>また、実際の災害時に食べられる非常食や、簡単に作れる災害食についても紹介し、「こんなものがあれば安心できるね」と、生活に結びついた知識も伝えた。</p> <p>子どもたち同士でも「テレビで見たことがある」「地震の時は机の下に入るんだよ」など、知っている情報を出し合い、共有する姿が見られた。</p>	<p>7-I</p> <p>避難訓練では、以前よりも子どもたちの表情が引き締まり、「静かに逃げよう」「ふざけたら危ないよ」と友だち同士で声をかけ合う姿が見られた。</p> <p>また、災害食についても「それ知ってる！」「家に水があるよ」など、自分の生活とつなげながら関心を持って話を聞く様子があった。</p> <p>知っていることを友だちに伝えたり、他の子の話を聞いたりする中で、一人では得られない知識をクラス全体で深め合う雰囲気が生まれ、災害への意識が高まった。</p>	B
1年間	<p>7-II</p> <p>虫が好きな子どもの興味をきっかけに、クラス全体で虫を飼育することが何度かあった。子どもたちは飼育ケースの環境を作ったり、観察を通して、虫の動きや変化に気づきながら、命を身近に感じていった。</p> <p>また、夏にはクラスでメダカを飼い、日替わりで「餌係」を設定。子どもたちは順番に世話をすることで、「み</p>	<p>7-II</p> <p>子どもたちは、生き物を「見る・触る」だけでなく、世話をしたり、環境に配慮したり、最後をどう迎えさせてあげるかまで考えるようになっていった。</p> <p>特に、虫を自然に返すという選択を子ども自身がしたことは、命を一時的に預かるという意識の芽生えと、命に対する思いやりができていた。</p> <p>また、メダカの餌係を通して、「ぼくがあげ</p>	B

	<p>んなで飼っている」という意識を育み、命を預かる責任感も育った。</p> <p>虫の様子から「そろそろ弱ってきたね」といった声が子どもたちから出てきて、「死ぬ前に逃がしてあげよう」と、自ら判断して虫を自然に返す姿も見られた。</p>	<p>る日」「メダカ元気かな？」と気にかける姿が見られ、クラス全体で命を大切にする雰囲気も育った。</p>	
1年間	<p>8-I</p> <p>手紙交換や母の日・父の日などの制作活動で、自分の名前を書く経験を重ねた。</p> <p>また、クラスに「投票 BOX」を設け、遊びのアイデアやみんなに聞きたいことをひらがなで書いてお帰りの時に発表する活動を行った。</p> <p>子どもたちはひらがな表を見ながら自分の思いや考えを文字にしようとする姿が見られ、書くことへの関心が深まっていった。</p> <p>文字が難しい子には保育者がなぞり書きの補助を行い、一人ひとりに合った方法で取り組んだ。</p>	<p>8-I</p> <p>文字への関心が高まり、「書くことで思いを伝える」「自分の考えを出す」経験が日常に根付いた。</p> <p>自分の名前を書くことに自信を持つ子が増え、ひらがな表を見ながら友達の名前や好きな遊びの名前を書くことにも挑戦するようになった。</p> <p>投票 BOX の活動では、「自分の思いを文字にして伝える」「みんなの意見を見る」ことを楽しむ姿が見られ、文字が“伝える道具”であることに気づく姿も育っていった。</p>	B
6月～3月	<p>8-II</p> <p>お帰りの会では、その日の人数分の椅子を子どもたちが数えて並べるようにし、「あと何個いるかな?」「〇人分ある?」と数を意識する機会をつくった。</p> <p>また、毎週金曜日には外遊び用のおもちゃをみんなで洗い、「あと〇個で終わる!」「これは2つ一緒に洗えるよ」など、個数の確認や工夫を通して、数と実際の物との関係を体験的に理解していった。</p> <p>他にも、カードゲームやカプラ遊びなどで「何枚取れたか」「何階建てにできたか」と数を数える場面も多く、遊びの中で自然に数に触れるようにした。</p>	<p>8-II</p> <p>子どもたちは「数えること」に楽しさや達成感を感じるようになり、生活や遊びの中で「あと〇個」「同じ数あるかな」など、数と物の対応に自信を持って取り組む姿が見られた。</p> <p>また、「2つ一緒に洗うと早いね」「5階建てに挑戦しよう!」といったやりとりから、見通しを持って数を扱う姿や、工夫しながら取り組む姿があった。</p>	A
1年間	<p>9</p> <p>日常の中で自分の思いを言葉で伝える経験を大切にし、話し合いの場を</p>	<p>9</p> <p>自分の考えを伝えるだけでなく、相手の気持ちや立場にも目を向けながら話す姿が増え</p>	A

	<p>多く設けた。</p> <p>自分たちで育てた水菜を「何にして食べたいか」を2人ペアになって相談し合ったり、お誕生日会のデザートを決める話し合いでは、「自分は何が食べたいか」だけでなく、アレルギのある友だちにも配慮して「みんなが食べられるものは何か？」と意見を出し合った。</p> <p>また、日常の遊びの中でも「どうやって決める？」「順番はどうする？」など、子ども同士で話し合う場面を大切にしました。</p>	<p>た。</p> <p>「〇〇ちゃんは〇〇食べられないんだよね」「じゃあこれならみんな食べられるよ！」といったやりとりが生まれ、相手に伝わるように考えて話す力が育ってきた。</p> <p>話し合いの中で、自分の思いが通らなくても納得しようとしたり、代わりの案を出したりする姿も見られ、言葉を通して関わり合う力が深まっていった。</p>	
2月～3月	<p>10</p> <p>発表会の劇では、登場人物の動きや歩き方について、子どもたち一人ひとりが舞台上で実際に表現してみることで、自分なりのイメージを発信する機会を設けた。</p> <p>また、自由画では子どもたちが自分の見たもの・感じたものを自由に描き、その作品について「ここは〇〇を描いたんだよ」と保育者に自分の思いを伝える姿が見られた。</p> <p>表現の過程や作品を受け止め、認める保育者の関わりを大切にしながら、自信を持って発信できるよう支えた。</p>	<p>10</p> <p>子どもたちは「自分なりの表現」で良いという安心感の中で、役になりきった動きやこだわりの描写など、自分の感性をのびのびと表現する姿が見られた。</p> <p>また、「こうしたら伝わるかな」「ここは〇〇を描いたよ」と、自分の思いや表現を言葉にして伝える姿も育ち、自分の表現に自信を持つ姿勢が強まった。</p> <p>友だちの表現に刺激を受けることで、さらに新しい表現に挑戦しようとする意欲も見られた。</p>	B